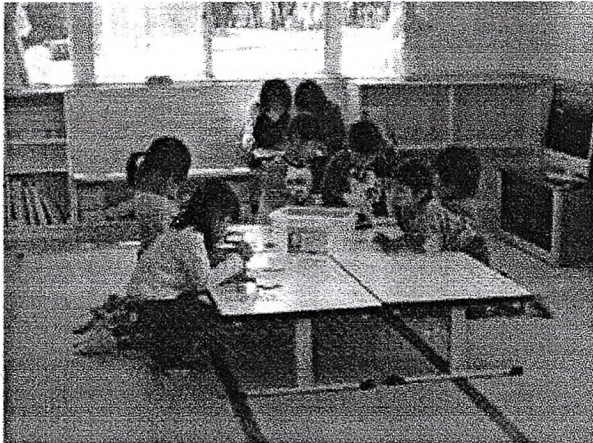


# 住民の手で児童館運営

## 仙台市初の設置 地域交流拠点に

太白・中田地区

仙台市が設置し、住民が運営する市内初の児童館「袋原コミュニティ児童館」が今月、太白区中田町にオープンした。地元住民自身が放課後の児童と遊んだり、乳幼児を育てる親を支援。「一つの小学校に一つの児童館」を目指す仙台市は同児童館をモデルに、住民運営型の児童館を今後増設する考えだ。



仙台市内初の住民運営型として開館した袋原コミュニティ児童館

開館した児童館は約百六十平方メートルのプレハブ平屋で、袋原小の敷地内にある。地元の町内会長、体育振興会長ら住民でつくる運営委員会が、市の委託を受けて運営する。放課後の児童約六十人を預かる「袋原子どもクラブ」をはじめ、三歳児までの乳幼児と親が遊んで触れ合う幼児クラブ、子どもが住民の指導で農業や踊りなどを楽しむ子育て支援クラブ、子育てをしている親同士の交流

も子どもと遊んで元気になる」と、一石二鳥の効果に期待する。仙台市内には、二〇〇七年四月に新たに児童館六館が開館し、計九十三館になった。これに対し、市立の小学校数は百二十三校で、学区内に児童館がない地域も少なくない。市子供施設課は「住民運営型の児童館は地域の交流拠点にもなる。今後増設を検討していきたい」と話している。

の場「わいわい広場」などを設けている。袋原小周辺にはこれまで児童館がなく、住民の有志が十五年前から民家を借りて放課後の児童を預かってきた。近年は、地域の宅地化が進んで児童数も増えてきたため、町内会が市に児童館の設置を要望していた。古賀敏令館長(六八)は「共働きの世帯も多く、子どもを地域で見守ることができれば寂しい思いをさせなくて済む。住民